

# 第1学年国語科学習指導案

児童 2組 男子14名 女子11名 計25名  
指導者 福島 恵美子

1 単元名 よくきいて、あてよう（光村図書 1年下 ともだち）  
教材名 わたしは、なんでしょう

## 2 単元について

### (1) 児童の実態

児童は、1学期の「好きなもの おしえて」の学習で、相手に何かを尋ねるときの尋ね方、それに対する答え方の学習を通して、丁寧な話し方で相手に分かるように話すことや大事なことを落とさないように聞くことを学んだ。また、2学期の「みんなに しらせたいこと」の学習では、夏休みの作品や出来事からみんなに伝えたいことを選び発表したり、興味を持って聞いたりすることで、伝え合いの楽しさを知る学習をしてきている。さらに、「どうぶつ村の おんがくかい」では、詩の読み方を工夫し音読発表会を行ったり、友達の詩の読み方について感想を伝えあう学習を行ってきた。

また、毎日の朝の会では、スピーチコーナーを設け、学習してきた事柄をもとに輪番制で短時間のスピーチを行っている。テーマを同じにすることで、友達の話し方を参考にしながら自分の言葉で話せるようになってきている。

この単元の目標に関わる項目について事前の意識調査をしたところ、結果は次の通りであった。

| 質 問 項 目                        | はい  | どちらかというとはい | どちらかというといえ | いいえ |
|--------------------------------|-----|------------|------------|-----|
| ① 聞きたいことがあるとき、相手に分かるように話しているか。 | 54% | 29%        | 17%        | 0%  |
| ② 大事なことを落とさないようにしながら聞いているか。    | 70% | 18%        | 8%         | 4%  |
| ③ 分からないことや聞きたいことを尋ねることができるか。   | 37% | 29%        | 29%        | 4%  |
| ④ 「～です。」「～ます。」を使って丁寧に話しているか。   | 63% | 29%        | 4%         | 4%  |

意識調査の結果から、「～です。」「～ます。」を使って丁寧に話しているかについては、9割の児童が「はい・どちらかというとはい」と答えている。丁寧な話し方の理解や意識ができてきており、授業中や普段の生活の中で意識して話そうとしている子が多い。本単元でも丁寧な話し方を意識させながら学習に取り組ませたい。大事なことを落とさないように聞いているかについては、7割の児童が「はい」と答えている。大事なことは何なのかを確かめ、意識して聞くことで、相手の話を最後まで聞くことができるようになってきている。しかし、分からないことや聞きたいことを尋ねることができるかについては、「はい」「どちらかというとはい」と答えた児童が約6割と少なくなっている。何を尋ねたらよいのかを考えられなかったり、どのように尋ねればよいのかが分からなかったりする児童がいることが理由としてあげられる。また、聞いてくれる相手がいることや自分の考えを相手に分かるように話すことなどは意識しているが、恥ずかしかったり自信がなかったりすることで、うまく話せなかったり聞くことができなかったりする児童もいる。

このことから、本単元では、児童が自信を持って話したり聞いたりできるよう、大事なこと（特徴）を落とさないように聞き取る手立てを教えながら学習を進めていきたい。また、児童一人一人が最後まではっきり話したり尋ねたりできるように、話し方や尋ね方の練習をしながら自信を持たせていきたい。

## (2) 教材について

本教材は、聞き手と話し手との立場に交互に立ちながら、目的と相手に応じて「尋ねたり応答したりすること」を経験する教材である。身近にあるものの特徴から、クイズの問題を考え、話し方・応答の仕方を練習し、ゲームを行う構成になっている。

1、2年生の「話すこと・聞くこと」の目標は、「相手に応じ、身近なことなどについて、事柄の順序を考えながら話す能力、大事なことを落とさないように聞く能力、話題に沿って話し合う能力を身に付けさせるとともに、進んで話したり聞いたりしようとする態度を育てる。」である。

本単元のねらいは、クイズを楽しみながら、出題・質問・応答のやり取りをし、伝え合う力を高めることである。

また、主たる指導事項は、「分からないことや詳しく聞きたいことを尋ねたり、それに答えたりすること」(A(1)オ)「身近にあるものの特徴を集め、問題を作ること」(A(1)ア)「当ててほしいものの特徴を聞き手に分かりやすく話すこと」(A(1)イ)「友達の話の大事なことを落とさないようにして、興味を持って聞くこと」(A(1)エ)である。

クイズ形式を取り入れることで、答える相手を想定して、より分かりやすい話し方について考えることができる。また、クイズに参加する人どうしが、聞き手と話し手との立場に交互に立ちながら、必要感を持ち、目的と相手に応じて「尋ねたり応答したりすること」を行う経験を通して、伝え合う力を高めることができる教材と考える。このような学習を進めることは、聞き手が話し手を思いやり、話し手が聞き手を配慮してともに協力し合って話し合いを成立させるという、話し合いの基礎ともいえるべき心や態度を養うことにもなるはずである。

## (3) 指導にあたって

つかむ段階では、教師が用意した「わたしはなんでしょうクイズ」を楽しみながら、ゲームに興味を持たせていきたい。初めてのゲームなので、グループのみんなで考えられるようにかかわり合いの場を設けながら進めていきたい。また、ゲームの手順を視覚的に示したりルールを確かめたりしながら、出題する方も答える方も、お互いに楽しんでゲームを進めるためにはどのようにしたらよいかを考えさせていきたい。

ふかめる段階では、身近にあるもので、みんなが知っているものをクイズにすることを確認し、そのものの特徴集めをさせることで問題作りにつなげていきたい。どのような特徴があるかをカードに示し提示することで、できるだけたくさんの特徴を集められるようにしていきたい。集めた特徴の中から、問題にするヒントを2つ決め、問題作りを行わせたい。また、集めたヒントは、尋ねられたときの答えとして使わせたい。

問題作り後は、話し方や尋ね方、答え方の練習を行い、自信を持って応答のやり取りができるようにさせたい。また、問題作りで使用した、特徴カードを使いながら問題を聞くことで、答えを導き出すためには、次にどんなヒントが必要なのかを考えさせたい。発表練習では、丁寧な話し方で文末まではっきりと相手に聞こえるように、お互いに確かめながら話す練習をさせていきたい。

まとめる段階では、相手とのかかわり合いの場を多く取り入れながら、学習したことを生かし、ルールを守りながら楽しくゲームをさせていきたい。答えが分かったことを知らせるカードを用意し、どれくらいの人が答えを分かったのかを出題者が確かめられるようにしていきたい。評価の場面では、自己評価だけではなく、お互いにめあてができたかを相互評価する場を設け、友達のよさをみつけながら学習を進めさせていきたい。

単元の最後に名人カードの記入を行わせ、自分のがんばりやできるようになったことに目を向けさせ次の学習に自信を持たせるようにしていきたい。

事後に、友達がどのような問題を作ったかが分かるように、クイズを出すために使ったカードやメモを掲示し参考にさせたい。

(4) 家庭学習と授業とのつながりについて

|         |  |
|---------|--|
| つ か む   | <ul style="list-style-type: none"> <li>・音読練習</li> <li>・身近にあるものあつめ（問題にしたいもの）</li> </ul>   |
| ふ か め る | <ul style="list-style-type: none"> <li>・特徴集め（問題にしたいものの特徴を集める）</li> <li>・問題の音読練習（自分が作ったもの）</li> <li>・2つめの問題作り（スピーチタイムに向けて）</li> </ul> |
| ま と め る | <ul style="list-style-type: none"> <li>・発表会にむけ問題の音読練習</li> <li>・学習感想</li> <li>・スピーチタイム（朝の会）でのクイズ準備、練習</li> </ul>                     |

3 単元の目標

(1) 国語への関心・意欲・態度

- ◎出題・質問・応答のやり取りをしてクイズを楽しもうとしている。
- ◎ゲームのやり方を確かめながら、楽しくゲームに参加している。

(2) 話すこと・聞くこと

- ◎身近にあるものの中から問題にしたいものを決め、そのものの特徴を集めることができる。
- ◎当ててほしいものの特徴を聞き手にわかりやすく話すことができる。
- ◎友だちの話の大事なことを落とさないようにして、興味を持って聞くことができる。
- ◎分からないことや詳しく聞きたいことを尋ねたり、それに答えたりすることができる。
- ◎姿勢に注意して、丁寧な言葉、はっきりとした発音で話すことができる。

4 単元の評価規準

| ア 国語への関心・意欲・態度  | イ 話す・聞く能力   |
|---|---|
| <ul style="list-style-type: none"> <li>・出題、質問、応答のやり取りをしてクイズを楽しもうとしている。</li> <li>・ゲームのやり方を確かめながら、楽しくゲームに参加している。</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・身近にあるものの中から問題にしたいものを決め、そのものの特徴を集めることができる。</li> <li>・当ててほしいものの特徴を聞き手にわかりやすく話すことができる。</li> <li>・友だちの話の大事なことを落とさないようにして、興味を持って聞くことができる。</li> <li>・分からないことや詳しく聞きたいことを尋ねたり、それに答えたりすることができる。</li> <li>・姿勢に注意して、丁寧な言葉、はっきりとした発音で話すことができる。</li> </ul> |

5 学習指導計画（全7時間）

はかかわり合いの場

| 経過   | 時間          | 学習活動   | 教師の働きかけ   | 評価規準（方法）   |
|------|-------------|--|---|--|
| つかむ  | 1           | 「わたしは なんでしょう」ゲームのやり方を知る。<br>教師が用意したクイズを学級全体で行う。                | ・ゲームの手順が分かりやすいように視覚的に示す。<br>モデルを示すことで子ども達にやり方を理解させる。                                    | ア ゲームのやり方を確かめながら、楽しくゲームに参加している。<br>(観察・自己評価)   |
| ふかめる | 2           | 「わたしは なんでしょう」ゲームの問題を作る。<br>学習形態は、学級全体。身近にあるもので誰でも知っているものを話し合う。 | ・身近にあるもので誰でも知っているものをクイズにすることを確認する。<br>みんなで出し合うことで問題を考えられない児童の選択肢を広げる。                   | イ 身近にあるものの中から問題にしたいものを選び、そのものの特徴を集めることができる。<br>(観察・ワークシート・自己評価)                            |
|      | 3           | 学習形態は、個人からグループへ。<br>問題にするものの特徴を書き出し、問題作りを行う。                   | ・特徴は問題にするものだけではなくいろいろなものができるだけ集めさせる。  |  |
|      | 4           | クイズの出し方や尋ね方、応答の仕方確かめ、練習する。<br>学習形態は、学級全体。よい話し方確かめ、問題を出す練習をする。  | ・相手に分かりやすく伝える問題の出し方を考えさせる。<br>特徴が相手にはっきり分かるように話す練習をさせる。                                 | イ 姿勢に注意して、丁寧な言葉、はっきりとした発音で話すことができる。<br>イ 当ててほしいものの特徴を聞き手にわかりやすく話すことができる。<br>(観察・自己評価・相互評価) |
|      | 5<br>(2組本時) | 学習形態は、学級全体。<br>(グループでの話し合い有)<br>尋ね方確かめ、尋ねる練習をする。               | ・どのような特徴が問題で出されているかをカードを使って確かめることで、尋ねることを考えさせる。<br>ゲーム形式で行うことで進め方の見通しを持たせる。             | イ 友だちの話の大事なことを落とさないようにして、興味を持って聞くことができる。<br>(観察・自己評価・相互評価)                                 |
| まとめる | 6<br>(1組本時) | グループごとにゲームをする。<br>学習形態は、グループ。<br>ゲームを行った後、活動をふり返り、感想を交流する。     | 4～5人の小グループに分かれゲームを行わせる。<br>・声のボリュームについて確認をする。<br>・評価の視点を与えることでお互いの話し方や尋ね方のよいところを見つけさせる。 | ア 出題・質問・応答のやり取りをしてクイズを楽しもうとしている。<br>イ 友だちの話の大事なことを落とさないようにして、興味を持って聞くことができる。               |
|      | 7           | 学級でゲームをする。<br>学習形態は、グループ。<br>ゲームを行った後、活動をふり返り、感想を交流する          | グループから代表者1名を選びゲームを行う。   | イ 分からないことや詳しく聞きたいことを尋ねたり、それに答えたりすることができる。<br>(観察・自己評価・相互評価)                                |

6 本時の指導 (5/7)

(1) ねらい

- ・クイズの大事なことを落とさないように聞くことができる。
- ・物の特徴から尋ねる内容を考え、質問をすることができる。

(2) 本時の展開

□ は、かかわり合いの場

| 過程                          | 学 習 活 動  | 教 師 の 働 き かけ   |
|-----------------------------|--|--|
| つ<br>か<br>む<br>5分           | 1 前時の学習内容を想起する。<br>2 本時の学習課題を確かめる。<br>□ もんだいをよくきいて、しつもんをかながえよう。  | ・前時に学習した発表の仕方について想起させ、代表児童に発表させる。  |
| ふ<br>か<br>め<br>る<br>35分     | 3 学習課題を解決する。<br>(1) 問題の中の大事なことを確かめる。<br>・友達の問題を聞いて、どんな特徴を言っているのか考え、特徴カードから探し出す。<br>(2) 質問のしかた、答え方を考える。<br>・答えが分からないときと分かったときの質問の仕方を考える。<br>「どんな、形をしていますか？」<br>「それは、丸い形ですか？」<br>「答えは、〇〇ですね。」<br>・出題者の話し方を確認する。<br>「正解です。こたえは、〇〇です。」<br>「違います。質問は、ありますか。」<br>□ 学習形態は一斉。ものの特徴カードを参考にし、ものの特徴から、答えを導く質問を探し、3つめのヒントを考える。 | ・「大事なこと」とは、ものの特徴のことであることに気づかせ、どんな特徴をいつているのかを落とさないで聞くようにさせる。<br>・ものの特徴を導き出す視点を与え選ばせる。<br>□ 大きさ、重さ、仲間、長さ、形、場所、色など<br>・ものの特徴をカードにして、選びながら質問内容を考えさせる。<br>・答えが分かったとき、分からないときの質問の違いについて考えさせる。<br>□ カードを選んだあとに、どのように話せばよいかを考えさせる。 |
| み<br>と<br>め<br>合<br>う<br>5分 | 3 本時の学習をまとめる。<br>(1) 活動をふり返り、反省をする。<br>(2) 感想を発表する。<br>4 次時の学習内容を知る。   | ・学習をふり返らせ、大事な言葉を落とさずに聞くことができたか、尋ねたいことを考えることができたかを自己評価させる。<br>・上手にできていた友達や自分がうまくできたことを発表させる。<br>・次時は、グループでゲームをすることを話し、次時の意欲へとつなげる。  |